

⑧

おお ぬま
大沼

所在地：北設楽郡豊根村富山字大沼

—暖帯のカシ林から温帯のブナ林まで—

昭和53年3月24日指定

面積 (ha)

特別地区 (全域)
15.13

大沼は、北設楽郡豊根村富山地区を流れる漆島川右岸の急傾斜地にある天然林です。大沼を含む周囲の地域の広葉樹林がスギ・ヒノキの人工林に変わる中、この地域は広葉樹二次林がそのまま残されました。

大沼は標高差が350mあり、この標高差の影響で植生の変化に富んでおり、これらの植物に依存した特色ある昆虫類も生息しています。

大沼の標高は500mから850mで、中部地方の森林帯としては暖温帯と冷温帯の境界にあります。このため、暖帯カシ林の要素から温帯ブナ林の要素までの様々な種をみることができ、植生が垂直方向に分布するその変化を見ることが出来る貴重な場所となっています。

標高700mより下ではウラジロガン等の常緑広葉樹、クマシデ・トチノキ等の落葉樹、モミ等の針葉樹の混交林となっています。

標高700m付近より上部には、ブナを主とする広葉樹林となっていて、県内では、ブナの天然林が残されている数少ない地域の一つとなっています。

昆虫では、ブナ林の指標昆虫であるフジミドリシジミ、ウラジロガン林の指標昆虫であるヒサマツミドリシジミ等が生息しています。



1：全景 2：落葉広葉樹林 3：登山口 4：河畔林

⑨

しろ とり やま
白鳥山

所在地：北設楽郡設楽町津具字白鳥他

—領家変成岩の水晶と特異な植生—

昭和54年3月2日指定

面積 (ha)

特別地区	普通地区	合計
5.71	7.90	13.61

白鳥山は北設楽郡設楽町津具地区の東南部、津具川の左岸にある標高968mの山です。

中腹まではスギ・ヒノキの植林地ですが、上部は急傾斜地が多く天然林が残されています。

白鳥山は全山が石英質の片麻岩からなっており、ところどころに空洞があり、そこには多くの水晶ができています。このような結晶のできている空洞を晶洞といいます。

山腹にある白鳥神社に向かう参道沿いにはヒノキ、ウラジロガンシ、ヤブツバキなどの常緑樹が生育しており、標高850m以上の急傾斜地には、モミ、ツガ、コウヤマキ等の針葉樹がよくみられます。

また、オオミミゴケ、タチハイゴケはこの地域でのみ確認され、イワダレゴケやコセイタカスギコケ等はこの地域を含む限られた場所でのみ確認されており、これらは県の希少種となっています。

このような寒地性のコケは亜高山帯針葉樹林の林床に見られるもので、標高1000m以下のこの地域に生育するのは珍しいものです。

なお、山麓にある白鳥神社舞庭では、鎌倉・室町時代から続く国指定重要無形文化財となっている花祭が行われています。



1：白鳥神社
2：全景
3：コウヤマキ群落
4：又夕場
5：片麻岩